



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

—あいなん音故地新—

ポップアップ

5月の終わり、都庁で愛南町の特産品ポップアップ（期間限定店舗）が開催され、売り子として参加した。

会場には愛南ゴールドが山積みになれ、そのほかにも焼き菓子や調味料、ジュースなど、さまざまな特産品が並ぶ。昔から馴染みのあるものもあれば、私自身が初めて知る商品もあり、その品揃えに売り子の私までワクワクした。

開店と同時に多くの人々が訪れ、レジにはあっという間に行列が。商品のことを質問してくれる人、楽しそうに手に取って選ぶ人、「美味しかったからまた来ました」と再び買いに来てくれる人。ブースは常に活気に満ちて、みんなが楽しそうに買い物をしていく。その様子を撮って残しておけばよかった。生産者のみなさんにも、町のみなさんにも、あの景色を見てもらいたかった。

生産者の皆さんをはじめ、愛南町のみなさんが大切に育て、つくり続けてきたものが、物に溢れ、舌の肥えた東京の人たちにもこんなに喜ばれとる。愛南町出身であることを心から誇らしく思った一日やった。

また来年も売り子として愛南町をPRしたい！

（テノヒラkiku）



御荘文化センター図書室より

“8月の新着図書ピックアップ”の紹介

【児童書】

『いのちの食べかた だれも教えてくれない、世界のヒミツ』

森 達也（作）・ヨシタケ シンスケ（絵）

KADOKAWA（発行）

牛や豚のお肉はどこから、どうやって、やってくるの？ 数えきれない「だれか」がいるから、美味しいものを食べられる。食卓から差別問題、戦争までを一本の線でつなぎ、世界のヒミツを知る。知ることによって世界の見方が変わる。戦争をなくすためにできることまで考えることができる一冊。



【往復書簡】

『急に具合が悪くなる』

宮野 真生子・磯野 真穂（著）

晶文社（発行）

もし、あなたが重病に罹り、残り僅かの命と言われたら、どのように死と向き合い、人生を歩みますか。もし、あなたが死に向き合う人と出会ったら、その人と何を語り、どんな関係を築きますか。「急に具合が悪くなるかもしれない」という乳がんステージ4の哲学者宮野さんと臨床現場の調査を積み重ねた人類学者磯野さんの20通の往復書簡。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。

図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ